



ペット防災のススメ

環境政策課 ☎ 65-1512

災害は、ある日突然起ります。大規模な災害が発生した場合、行政機関による支援は人の救護に集中しがちで、ペットへの支援は遅れることができます。飼い主とペットが災害を乗り越えるためには、日頃の備えが欠かせません。

9月 20 日～26 日は動物愛護週間。いざという時に備え、ペットを守るためにの事前準備や心構えについて、考えてみませんか。



市 HP



環境省 HP

✿ 身元が分かるもの

災害発生時には、ペットもパニックになって逃げ出しがあります。ペットが迷子になって、どこかで保護された時、すぐに飼い主が分かるように普段から身元を示すものをつけるましょう。

✿ 健康管理としつけ

避難先などの慣れない場所で他の動物と一緒に生活では、ペットも体調を崩しやすくなります。日頃から多くの人や動物に接することや、いろいろな環境を無理なく体験させておくと、環境の変化によるストレスを軽減させることができます。



犬の場合

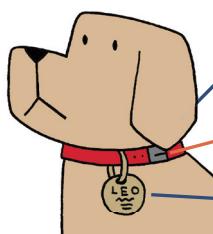
- 「待て」、「ハウス」などのしつけ
- ケージに慣らす
- むやみに吠えないようにする
- 狂犬病予防、各種ワクチンの接種
- ノミ、ダニ、寄生虫の予防
- 不妊去勢手術の実施



猫の場合

- ケージやキャリーバッグに慣らす
- 人や他の動物に慣らす
- 各種ワクチンの接種
- ノミ、ダニ、寄生虫の予防
- 不妊去勢手術の実施

犬

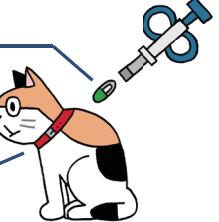


マイクロチップ

鑑札・注射済票

首輪・迷子札

猫



✿ ペット用の備蓄品

ペットの支援は遅れることがあり、個別の状況に添えないこともあります。フードや水は7日分以上用意しておきましょう。

健康や命にかかわるもの



- ・薬、療養食
- ・フード、水（7日分以上）
- ・キャリー、ケージ、予備の首輪、リード
- ・トイレ用品、食器

💡 食べられる銘柄のフードを複数用意しておこう！

ペットの情報



- ・ペットの写真
- ・飼い主の連絡先、一時預け先の情報
- ・ワクチン接種履歴、かかりつけ病院の情報

ペット用品

- ・ブラシなど
- ・お気に入りのおもちゃ



キャリートレーニングに挑戦しよう！

1 キャリー設置

無理やり入れず、まずは生活空間に置くだけ。

2 フードを置く

キャリーの中にフードを設置し、自分から入るまで待つ。

3 フード投げ入れ

10～20粒をキャリーの中に投げ入れる。ペットが中に入り、くるっと回って顔を出したら10粒あげる。

4 扉を閉める

フードを持った時、自分から入るようになつたら、扉を閉める。

災害が起こったら

✿ 同行避難しよう

まず大切なことは、飼い主が無事であることです。安全を確保し、落ち着いて行動しましょう。避難所に避難する場合、できる限り飼育しているペットと同行避難し、自宅に置き去りにしないようにしましょう。

Check!

猫や小型犬はキャリーバッグやケージに入れましょう。大型犬はリードを付け、首輪が緩んでいないか確認してください。ケージは布などで包んで暗くすると安心します。

同行避難って？

同行避難とは、災害発生時に飼い主が飼育しているペットとともに安全な場所へ避難することです。避難所において、人とペットが同一の空間で居住できることを意味するものではありません。

状況によっては、避難所への避難が難しい事態も考えられるので、万一のときの預かり先を確保しておくことも大切です。

✿ さまざまな避難

ペットの同行避難には、さまざまな避難の形があります。

1 同伴避難

ペットを避難所の敷地内
で飼養管理すること



人の生活スペースとは
別の場所で避難

危険な場所

同行避難

2 分散避難

親類友人宅・在宅避難・
ホテル・車中泊など、避
難所以外に避難すること

ペットと泊まる ホテル



車中泊



友人宅



3 ペットとは 別の場所へ避難

ペットホテルや親類友人宅、
動物保護シェルターなどに
ペットのみを預ける方法



ペットホテル



避難所での生活

✿ 避難所運営マニュアル

本市の避難所運営に関する基本原則を記載した避難所運営マニュアルには、ペット連れ避難者の対応について、以下のように記載しています。

- ・屋外で飼育可能なペットは原則「屋外」にスペースを確保してつなぎ止めること
- ・屋外で飼育困難なペットはケージなどによる管理、他の避難者との分離、施設管理者との十分な協議の厳守を前提として、屋内のスペース確保を検討する



✿ 避難所での注意点

今年実施した市民アンケートでは、「ペットとの避難について、「ペットも家族として一緒に避難したい」との声と同時に、「アレルギーや苦手意識を持つ人への配慮も必要」といった意見も多く寄せられました。

避難所では、動物が好きな人、動物が嫌いな人、アレルギーを持つ人など多様な人が集まります。人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。避難所の飼育ルールを守り、飼い主同士で助け合い、清掃などを行うようしましょう。

ペット同伴の避難訓練（角野）



角野防災会は昨年9月、初めてペット同伴の避難訓練を実施しました。

受付は、一般の避難者用とペット同伴避難者用で別々に設置。人が生活するスペースとは50m以上離れた、屋外にある屋根付きのスペースをペット用の避難場所としました。同会によると、当日は地域住民200人以上が参加し、ペットを同伴したのは声を掛けた5人ほどとのことです。

「人の避難についても、まだ準備が不十分。正直ペットの対策までは考えられていませんでした」と同会の伴野公博会長。何匹くらいのペットが避難してくるのか、ケージを並べるとスペースは足りるか、冬なら防寒対策が必要ではないか…。今回の訓練を通じ、多くの課題が見えてきました。

今後は、地域内のペットの実数把握や、避難所の「ペット登録台帳」の作成なども検討しているそうです。

避難時の行動を考えよう

本市の総合防災マップを確認しておき、災害時に避難所までどうやって行くか、考えておきましょう。

- ①いつ逃げる？
- ②どこに逃げる？
- ③どうやって逃げる？（移動手段）



Check!

ペット防災について地域で考えよう

大規模災害時には、地域の皆さんで協力して主体的に避難所を運営してもらうことになります。自主防災組織などを中心に、ペットを飼養する場所や受け入れ可能頭数を事前に検討しておきましょう。

ただし、実際の災害時には、避難者や被災の状況次第で、ペット同伴避難の可否が避難所によって異なることもあります。

